838
297
116

平栗橋藤土興尾
塚原仆田屋津本野

鈴池武前石飯
木田井田川塚

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

神尾　本國甲斐

伴四郎加茂神祇加納先祖久久蒙　勅勘之處ニ
駿州清見關嘉慶二年義儒卿駿州富士山登之時被
召出供奉仍命賜神尾氏自是稱神尾氏

紋蔓柏

神尾修理元宗後裔

久吉　神尾長五郎

住于駿州
住於今川義元　法名相云

忠重　神尾孫兵衛

生駿河
住居於甲斐國一条郷
法名淨圓

久宗　神尾猪之助　刑部尉

釿田筑後守

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

火晴 神尾長左門 生駿州
兄同移於甲州一條
於甲州召出了云

某 神尾長十郎

某 神尾七郎左門 母同妻後山中七郎左門

女子 神尾孝治 妻神尾彦四郎利時

勝定 生甲斐
仕於駿河大納言殿 寛永年中歿

某 神尾孝正 妻大久保仕駿河大納言殿

定年 神尾孝右門 母神尾助就女 妻杉谷甚九郎女
慶安元年九月廿四日 家督相續 寛文十一年閏正月廿四日 致仕 貞享元年十月廿九日 歿
延寶八年九月 元祿元年十月廿四日 歿

幸定 神尾治部左衛門 母同

女子 母同

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

幸俊　神尾清房　妣幸行女

妣安倍氏　智勇寺杉谷甚吾妹女

生於延宝八年午年九月廿日辰之刻
卒於享保元年申年七月廿日辰之刻
法名新見志秀院

女子　嵩

幸端　神尾長五郎　嵩

女子　嵩　住杉谷智勇寺

神尾守房　妣

神尾清房　妣

手保元年丙申生
宝暦五年乙亥
同　廿日辰之刻
為信士　御宝号
為妻　横山内記雄

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

幸之助
母
宝暦二年壬申生
明和五年戊子
為富見行室義雷
同八年辛卯
元年北歳

庄之助
実
宝暦五年乙亥生
明和八年辛卯
為中書侯
文明二年庚寅
元年北

久蔵
母
宝暦九年己卯生

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

萩野卿系

忠雅 母 以後在系林寺号西女

保應元日条 桜田行幸供奉賜新規御剣

天和二年九月廿六 元年十六

某 萩野作助 母

忠良 母 萩野市兵衛

宝文二年三月廿二 桜田行幸供奉賜甲冑

天和二年九月廿四 延宝五年乙酉行幸所用要領

十二月廿二 治定元禄十年丁丑三月廿日 物頭仰付

宝永元年甲申十二月廿五 死 御移因二年乙酉二月廿一日 小普請

為之被揚津産 因幡守為小普請

十年五月廿六日 死 御広敷添番

忠治 母 萩野半支衛

元禄十五年十二月廿五 死 桜田行殿中ノ組物頭仰付

宝永元年十月十二日 為御徒

十年九月廿日 因八年三月 御徒目付被仰付 小普請

十年六月廿日 死 御広敷添番 因四年三月廿日 死

良行 母 萩野長次郎

元文四年三月九日 百俵 宮内隊被召直

寛延二年巳十二月六日 御目見 御徒

因六年三月十一日 死

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

[illegal]
[illegal]
[illegal]

元禄十四年　元年

某　尾本甚平
　母

元禄十三年家督相続同年御屋敷為御通
同十五年三月廿五日御目見
宝永元年十二月廿五日御小納戸

某　尾本喜内
　妻

享保　年　留守居為御通
　　寄合

某　尾本政右衛門
　母

正徳二年三月廿日
享保十六年三月
同十七年三月表火之番
宝暦十二年

表火番
同十六年寄合

某　尾本政右衛門
　母

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

藤原

興津　本国駿河　改姓花萎　蛇目

鎌足十代常陸介維幾

後胤

定時　興津遠江守

信今川家臣

定光　興津出羽守

信今川家臣　十月六日良喜行年

興津左内尉

定安　興津左内尉

信今川氏遠州後信玄公時勝頼之後信茶會

興津加賀守出行年

興津仁兵衛

定忠　興津仁兵衛

自刀年仕武田作十郎之後信濃浅野出利長

出戦傷尽筭力

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

正盛 興津惣兵衛
母浮津次左衛門女
慶長二年丁酉生於江戸
大神君大坂役属松平甲斐守吉政備後首
二級後為松平甲斐守臣二百石

女子 浮津彦右衛門正信妻

某 興津猪兵衛 母同

女子 母同

正幸 興津彦兵衛 母矢田作左衛門女
元和二年丙辰生於駿州

慶長六年辛丑蜂須賀七兵衛始為御先手組之頭是時撰之組中諸士之者子弟
令為蜂須賀之組正幸矢田作十郎之甥而以為浮津市兵衛之嗣旋以
上意擢蜂須賀之組御留守居御番衆 上意數回而賜黄金之後傳
十四寛永二年乙丑為御旗本衆初行之米時以其物成之割賜三百石然
請納此月俸乃造 台徳院殿御蔵入之所請高納倉追御其所賜之旨也
慶長十九年甲寅同廿年乙卯大坂両度役供奉 寛永廿年致仕
寛永十八年辛巳十二月三日卒年六十八

某 興津弥三郎

某 興津治右衛門

孝純 興津金五郎 金兵衛 母
寛永十年癸酉為父跡御番代於波田国書付并力同十一年甲戌七月
御上洛供奉 同十三年丙子四月日光山供奉

慶安二年五十歳任同四年九十一死

某 ― 興津半右衛門

女子

某 ― 興津喜右衛門
　母
　慶安二年五十為文跡奉行代任
　万治元年八月任宝永二年九十九

某 ― 興津
　作右衛門
　任右京亮兼

某 ― 興津十郎兵衛
　母
　天和二年癸二月又跡奉行代為
　正徳二年右四跡仕享保十年九
　十二死

某 ― 興津源内
　母

某 ― 興津喜右衛門
　母
　万治元年八月為又跡奉行代為
　天和二年癸二跡仕之禄五百石
　享保二年四十二死

某 ― 興津十郎兵衛
　母
　天和二年癸二月又跡奉行代為
　正徳二年右四跡仕享保十年九
　十二死

某 ― 興津源内
　母

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

正徳二年右四月父跡家徳為
文修十二年十月致仕之文二年丁巳正七卒

某 女 興津宝五郎

文修十二年申六月父亮氏為
同十四年七月十日西高之加役同
同十七年己亥十二月万主馬成長時六本財撰更多傷溝中為銀宿
右田備中守延宝四年丙子九月以野更多道延得為盲目備多
加役同年十月逐役宝暦元年辛未十月致仕同二年壬申七月卒

某 女 興津久助右衛門

某 女 興津宝五郎

宝暦元年辛未十月為父跡家
同二年壬申二十九日相州内藤新宿
同四年甲戌二月死

某 女 興津宝五郎

宝暦二年壬申五月為父亮氏跡
同十年庚辰二月致仕更改十郎右衛門

某 興津幸治郎

母山内氏清光女

宝暦十年庚辰二月為亮氏跡
同十二年癸未二月廿九日為銀二枚宛水野家財傳
以死去同六年丙申十月卒也

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

興津長五郎

妙

寛政六年甲寅十月 高代 白山本伊予守得業乃因之事ニ而
白羽子 文化元年子六月致仕同二年丑五九九

某

興津幸兵衛

文化元年甲子六 高代 能勢甚四郎得業乃因之
文政元年戊寅十二八九

某

興津治十郎

文化八年辛未六月 白文高代 土佐守二年表五八九

興津治八郎

文化十四年丁丑二月 文治高代 為用 白山本伊予守得業乃因之事ニ而
文化五年戊辰十二月致仕 帯刀

某

興津長五郎

妙

寛政六年甲寅十月 高代 白山本伊予守得業乃因之事ニ而
白羽子 文化元年子六月致仕同二年丑五九九

某

興津幸兵衛

文化元年甲子六 高代 能勢甚四郎得業乃因之
文政元年戊寅十二八九

某

興津治十郎

文化八年辛未六月 白文高代 土佐守二年表五八九

興津治八郎

文化十四年丁丑二月 文治高代 為用 白山本伊予守得業乃因之事ニ而
文化五年戊辰十二月致仕 帯刀

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

文政四年七月改此年一統
傳之至二月名昌廻勅
列八年四月六年射之今御
列十三年御父四月往
主保二年卒
御出之因四年
出役物科月俸之外

藤原

藤田

本國肥後後改出羽

敏二本鷹羽　又改敏

鍾足十三代

師大納言經重卿二男

政則

母鳥帽子刑部大輔

尚於肥後州

則隆　菊地肥後守　左近衛

延久二年度秋賜肥後國菊地郡

二男

經筆

兵藤敬吉大郎左近衛少將

妙華室侍従清原教通女

經頼　菊地民部大輔

母家督

經宗

鳥羽院北面者所

經直　菊地七郎

道忠

土屋平次　子ども

宗泉

土屋平八郎

宗恒

土屋平兵衛尉

宗直

土屋弥兵衛

宗貞

土屋平次右衛門尉

宗純

土屋平次兵衛尉

宗恒

土屋平兵衛尉

宗直

土屋弥兵衛

宗貞

土屋平次

宗純

土屋平次兵衛尉

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

経長　兵衛大夫　左京亮
藤田三郎　後改藤田
経家　藤四郎
経遠　藤左衛門尉
経秀　村田五郎

藤田太郎
経茂　藤田小次郎
経国
経勝　長坂小太郎　領長坂
経基　村田五郎　為村習子
経式　藤田二郎二郎
嗣父経茂之跡
創行首級

経綱　藤田小太郎
移国領長坂
経信　出田武人
経親　小山七二郎

秀国　藤田次郎太夫
国方　藤田
一方遠　藤田太遠郎

隆久　藤田隊太郎
隆久四年内裏蒙古襲戦攻
筑前門数箇之矢
時宜南北朝分

重頼　藤田五郎
重戸次左衛門尉
隆久加無双之軍功
重秀重頼之跡
重清　藤田

重次　藤田左衛門尉
天正十年従前上洛明智義光一
味之由有之加誅伐之
田川御陣之名誉之
寺光　藤田四郎太夫
重戸次世系不詳
光世　藤田隊四郎
某　某

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

勝重　藤田右京　五左ヶ門

仕高上出羽守義光四男修仕駿河守秀親子源五郎義俊
元和元年家上家滅絶之時為浪人旅宿土井大炊頭利勝
寛永元年子ヲ以難延被前所仕給名及浮
勝之子此節十八人ヶ内也無役之内
正保二年四月七日於下総州為河堀下死亡法名浄土隆岩寺
ヲ留巌善等信士　妻岸兵部女　慶安二年三月二日元
和元年子歳尼妙日信女

某　藤田安左ヶ門　如件
仕土井能登守利房二百石

子　松　近藤弥六兵衛養子
子　多　牧野十郎左衛門妻

子　女子　土井豊後守
吉田金大夫　妻

始重　勝平　藤田五左ヶ門　始権七郎

母岸兵部女・妻　土井藩　横田弥右ヶ門

生於下総州印幡郡佐倉正保二年四月成冨遺跡得二百石慶安元年四月日光勤少々人足御駈走役寛文二年三月日光御宝殿御修復役同十二年三月十八日於城下死亡寺隆岩寺

某　藤田右京　儀右ヶ門
仕土井後浪人
藤田十助　父

某　ヤカチ　妾白人洗濯於願寺借頭仮薗ヲ観志院寿林空清信子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子 風 土井左膳 六郎 文 妻

女子 清 井上相模守 牧野市正 妻

勝高 法重時 藤田権七郎 五万石

横田弥一左衛門女

無妻

生於下總古河

寛文十二年子 嗣遺跡事 時年

元禄五年壬申六八於江戸 本領安堵 仍筑前

守淨国院 寛容 快相 為

重時 為兄勝高之嗣

女子 藤田又左衛門勝通妻

某 藤田勘助

勝時 法重時 藤田安左衛門

寛文

無妻

生於下總古河

元禄五年壬申七月兄勝高之遺跡仕利益国

奔化筑前守高豊 實田信士

勝通 藤田又右衛門

寛文 広嶋弥惣兵衛 勝次男

勝通寛文十二年子 室井利隆 家滅人 後土井利益 時 再仕井家

為利益之供小性 十人扶持 其 勝時 病無嗣 勝通 依

姫方徳川 後為御養子 得 行百石

享徳二年 利益 仕姫路 城主 伊賀守氏長 逝時 為殉死 同六年 事

二西依世継辛去 院殿高賀 進止於
勿知行目録 寺領二年千百廿庚 土井家為大膳
同八年癸卯七十五於江戸卒 法名勝正玉女 元禄九年子九月
妻 同姓 玉女 宝永七年庚寅 嫁
神山氏 政 正徳元年辛卯七回忌 移元年辛丑三月化寛
乃事 称院光日 禅智尊

藤田庄左衛門 勝正 土井家退去時後義絶
又十郎 又
又三人 又 土井家
鈴木左衛門 麦 妻 土井家
山御方 十 母 阿部村馬寺内 物頭

事 土井家
実 稲葉丹後守 家中
櫻井平太左衛門 女

土井家
樋口善左衛門 改盛孝

勝富 土井
藤田三之丞 五左衛門 八郎左衛門 支

事 塩川忠次郎恒忠 女 婿 勝富
延寿二年乙丑九月廿五日 十五回忌辛巳 法名 勝富
安永九年庚子 十五回忌辛巳 法名 勝富

正徳元年辛卯七月生 於江戸
寺領二千百文 勝富庚子井家時 寺領
改定三小性組 賜二十俵二口為民長
同八年戊午五月七民長之家相之 於
目見勤中奥番所 於定止土井家 藤田又五郎同居 近于 同家

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

女子 久

勝秀 藤田又五郎 五左ヱ門

母中村太左ヱ門女

生於江戸
寺住八年寺子師匠ニ遷
宝暦十年庚辰十二月廿四日卒
法名 十二月廿四日

女子 乃却養夜寺養先
橋氏完子 [illegible]

某 藤田他蔵
実稲葉内匠頭大口銀蔵戻
嗣養父家督相続迄二丗家数数後絶

[illegible]十六年子実二丗二丗大炊頭貞
[illegible]賜和知五十石利実道書送於会津氏長勿之行為家實
同七年八月賜和知行目録自享保十五年庚戌
[illegible]高家役席同十二年丁未十月賜服水入支諏座数同十五
[illegible]拝謁同廿年乙卯八十六寺江戸城吹上御庭中奥廣間之文寺中屋敷猶山川
所鉄之為大中臣書所氏笑之時的中奥廣間之文寺中屋敷猶山川
浜之御延子三年丙寅十八改八御支寛延二年己巳十二月賜暇
常役勤方如元而書輪同同四年辛未七丗四加五十石九勿百石
謝之同廿賜知行目録八年前之宝暦二年壬申四月之勤方如元為
用番役当時側役同二年壬面二十五浅野内匠頭長矩持之領之
料之子依同年四六雁病同十四日元至寛五年乙丑仲春生同年九
年四十四安化病院与浄離院蔵寛山居

藤原
橘氏　本国豊後

傳曰豊前日向両州傳姥嶽明神末孫云々

大太　大神

惟任　大膳大夫
住豊後州

惟盛　臼杵荅者
号豊後臼杵

惟俊　臼杵太郎

惟用　臼杵二郎

惟栄　緒方三郎
為藤原氏
号豊後臼杵

惟朝　緒方豊前守
母橘氏　号三郎義紀女

惟章　三郎太郎

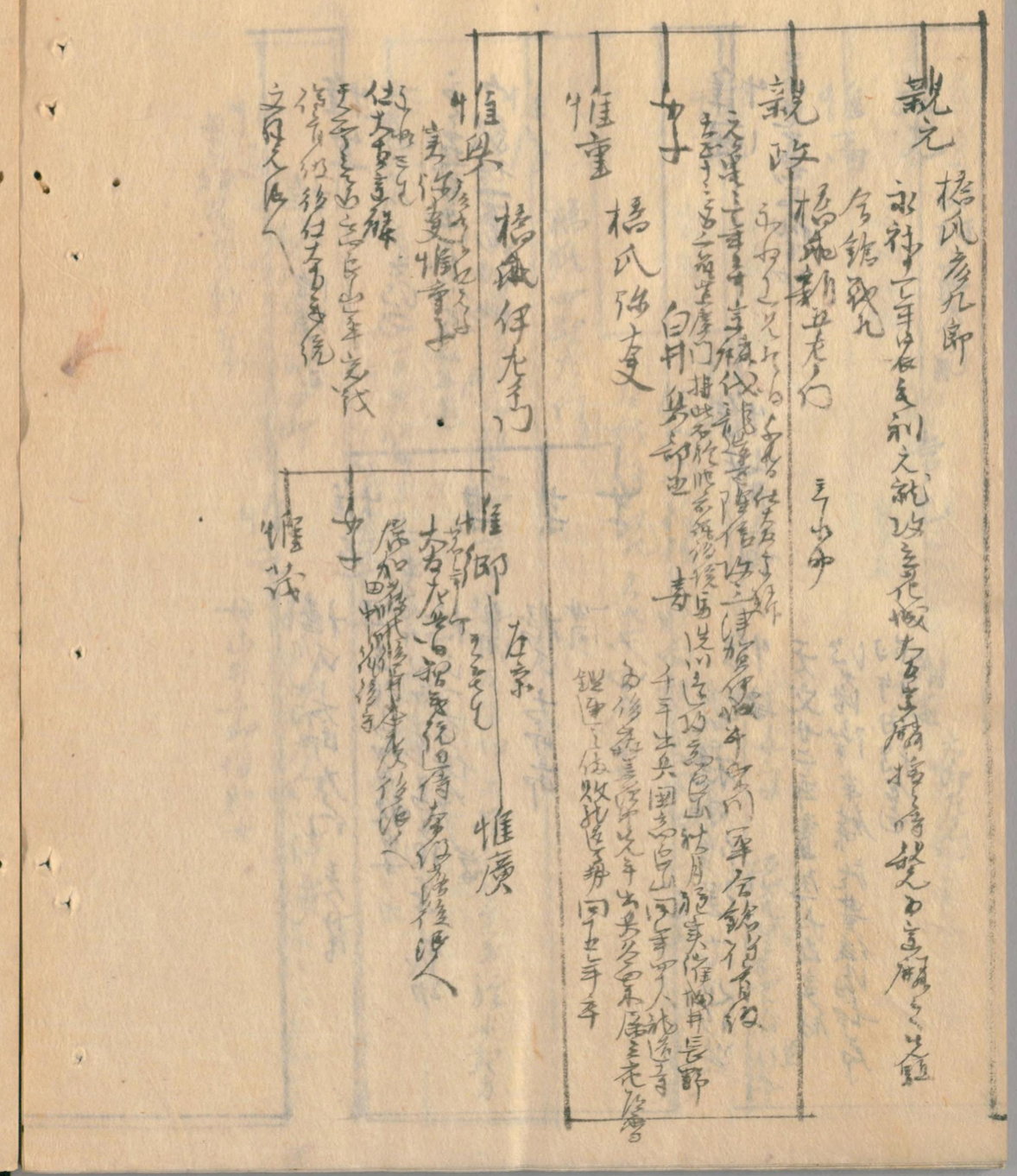
惟澄　戸次次郎

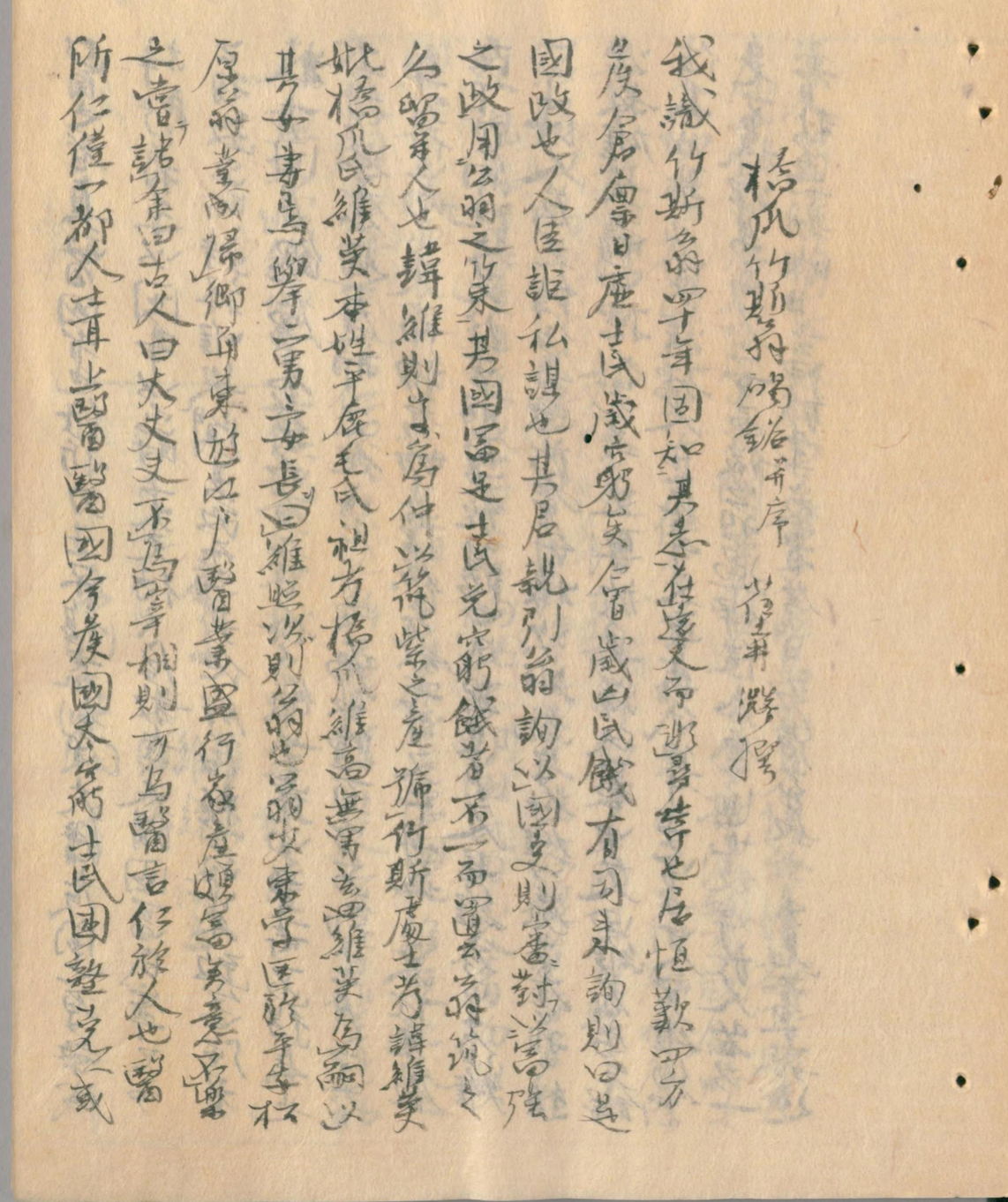
惟綱　豊後
従四位下[illegible]中[illegible]

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用





橘氏系圖序

我識竹斯多平年固知其本在攝戸部尚書橘諸兄公曾孫也人臣記私諱也其居執弓當陳之政用公明之效其國富足寔光宇朕錢者不一而富云爾筑紫之產殖竹斯廣土芳譽維美此橘氏維持本姓宇庶毛氏祖考橘朝臣維高無寄云雅美為論以其女壽為舉寔安長門守橘朝臣廣相雅照次則為弼次東宮匡衛平相厚蒙恩寵歸鄉再東遊江戸醫業盛行家度頗富美意不盡之言諸集而古人曰大丈夫不為宰相則可為醫言仁旅人也醫所仁徳一都人士其止醫醫國今度國太前士民國整完或

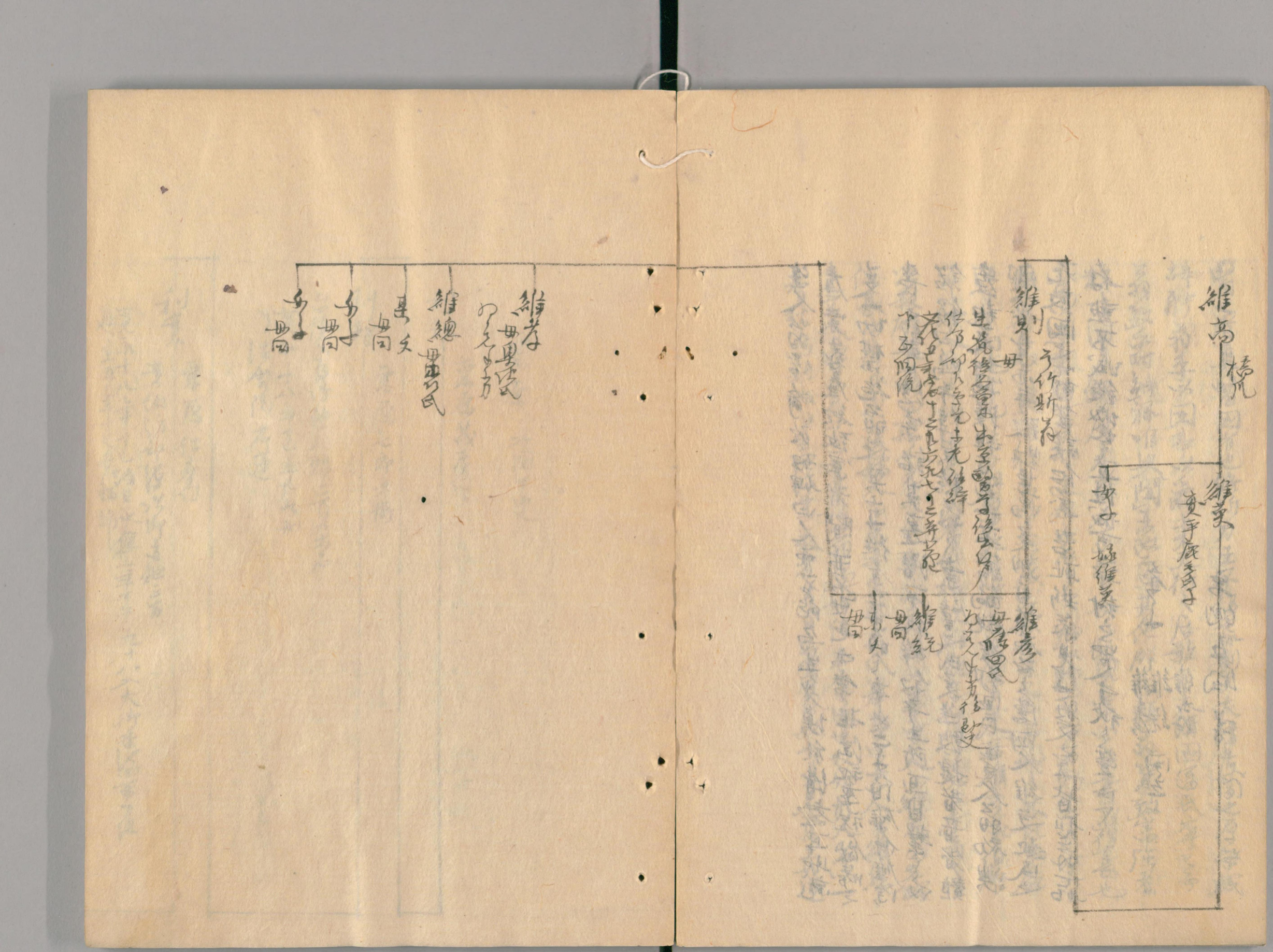
醫之者真醫國者也仗折刀主不得已
辭脾爲事以國事以爵未支待之辰數年大清國氏寧之命
爵致命時緯緑帷與聞事政命也其他解石粮等數百陣者
數十四月餘廣東者至有三百人之餓矣帝曰善寡不得長也
蓋以速慶過度那文化之石之死者百万百数十万有奇
幸二萬城之來南柳東坡之隱扇青秋七年又二年城之東北東廠
陛下正明之見楚王羽之聖於勝西氏舉男之人長維彦中石雄
下子女人爲見鋒伍長等於青針條次維統子仲雄以處王孝羽之後
沙叔雄天勝西播人先年更要於奥澤氏舉男又曰維孝爲先鋒
伍長以某之奥澤播人亦見幸又要西氏舉子男也人男維總
芝若禄以某亦天二安西嫁宿過婢僕太寧近世奴婢於人者以一
青秋爲期以日爲宿於事家者今日爲宿翁奴也其見奮立於道

準人前常喻於奴婢曰人而不能爲生身擁於溝壑耳此就
產業家產統致富者聞亦常拒流祀巫祝厭勝之
妻一切禁絶爲使其二子從余学古文也亦伯雄仲雄淳
喪之數日注余銘其墓潛而敢辭叙事所耳目撃之以
銘銘曰嗚呼偉矣稽翁之業諸孫之武妻坐致捷者昔者鄭
庾耗妻如倡漢祖百戰一名窘餉說食卿單身赤手致財巨萬妻妾自有布衣
死救國之前坐談仁義吾恥斯言見之在文字皆拙之所
存勉石城絶城化之住城可寧封之四尺千秋之聲

維彦
維統
維孝
同立

第(四)五幅書

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用



栗原　本国甲斐

利秋　栗原蔵人

利矩　栗原七郎兵衛
白徳公御小納戸頭三百石
寛永十八年正二九
于法雲院葬蓮

利寛　栗原仁左衛門
寛政初御徒頭進組三男
寛永十八年正月廿日承應二年
延宝五年正月九十八大御番組帯刀組

貞享元年子十六死葬威光山法明寺
号了受院日真

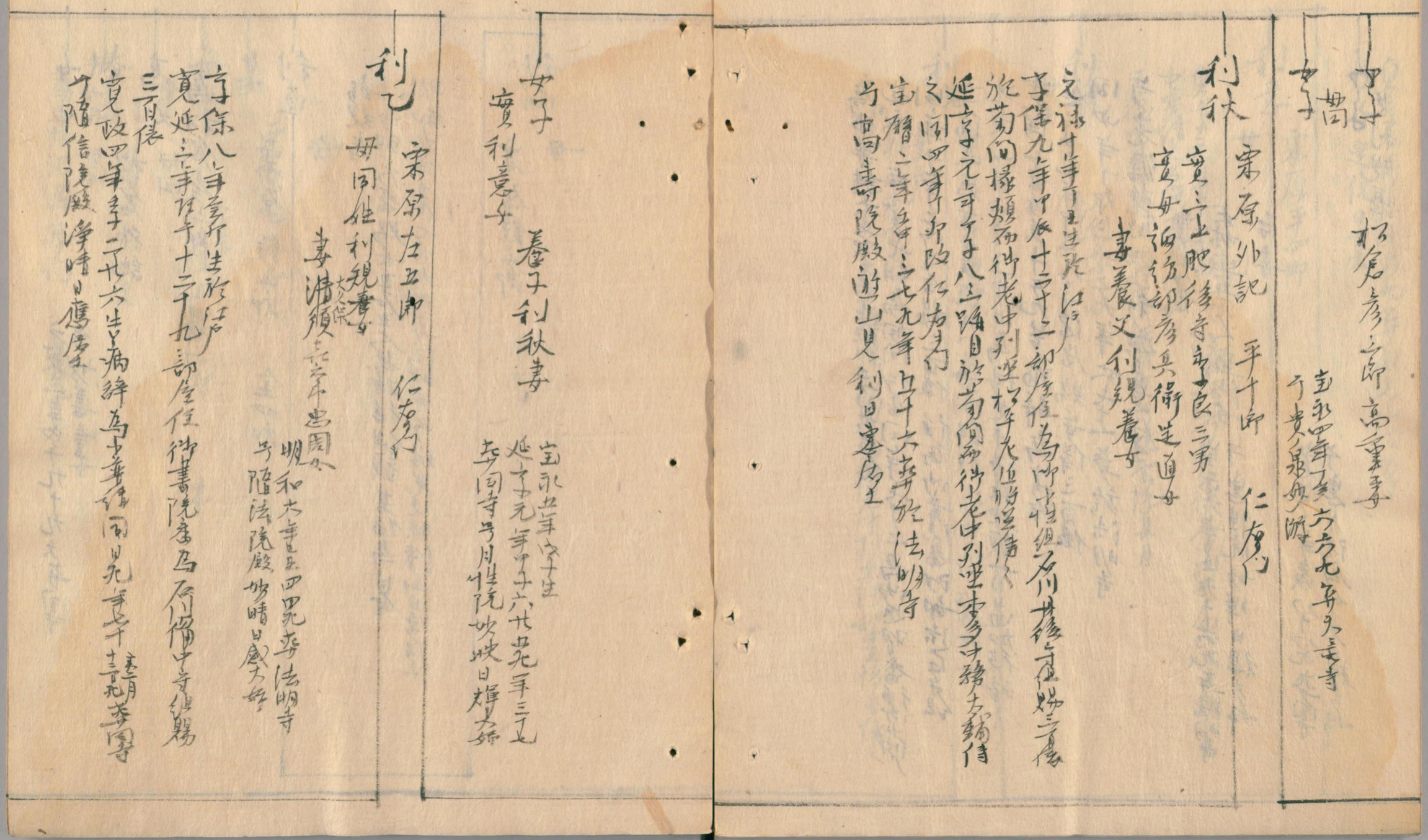
利意　栗原平四郎
女

貞享二年子十六歳自於菊岡御先中刻而出家
中書清大名侍寺住職
元禄四年未八十九死葬法明寺号暁雲院真月

利見　栗原主馬助　長左衛門　仕本内　登刑部
女　利光
智　童子
實母家女
元禄四年未十二月廿日於菊岡御先中刻而阿部豊後守傳ゝ

為中書請大名侍之家格而班二百俵席
延宝八年申未七月為御行番同年冬十二月為中書殿御小納戸
同年十二月二十日迄合賜二百俵 役料銀頭
享保十六年亥五月八日為同組頭
元文二年巳十二月出為御先手鉄炮百匁加役
寛保元年酉年十九告病辞役 為寄合
延享元年子十八日隠居賜寄合俸三百俵
同四年卯二十九年六十七歳
号光源院徹法山利通 豊後守

利規　森藏人
女　森藏人盛淳女
后妻



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子 母同 松倉外記

高則 母同 為松倉三郎

利直 栗原鉄之助 金四郎

新規為津山城大番賜北条五介扶持移領其移為男
明和九年春七月九日法明寺于瑞光院隠津山日蓮屋

利成 母 富原鉄之助

女子 母 栗原乙五郎 久

女子 母 李番 淮田郷之助 妻

勝喜 母 藤沼左大夫 為藤沼源左衛門 養子

元文三年四月九日卒妙善寺

天明五年乙巳七十九歳 法明寺
于秩父妙耀信女

利康 宗原佐五郎
母 法頂院殿 寛政六年甲寅七十九歳 法明寺
妻 寛政七年乙卯十月二九日 法明寺
于演物院殿妙寛日相大姉
墓 同郡 [illegible]

寛政七年乙卯 諸国二百僕
于和二年庚二十二歳仕

明和六年己丑五十五歳 寿国寺
于晴山知仙居士

利古 宗原良吉 仁左衛門
寛二上因幡守平定三男
母 [illegible]

于和二年壬辰二十二歳 智三百僕 菊岡
為上養子仙蔵 退見左衛門

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

源氏

栗原 本國

紋 菱井筒三字

八幡太郎義家弟
河内守義忠末代

義利 小立服左衛門尉

義章 小立服次郎

義墻 小立服三郎

女子 信田太郎 妻

義唯 小立服十郎
為逆利義害被殺之

利國 小立服主膳正

女子 大副伊也守 妻

利長 小立服七郎

国立国会図書館 タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116

ガラス使用

利宣 常原仁左衛門
実祖父部源次郎 二男

利意 常原平四郎
利親 又左衛門
利秋妻

利秋 常原外記 仁左衛門
妻之生死後家 二男
利秋妻
支利高

利乙 常原右五郎 仁左衛門
久
高則 松原弥兵衛

利直 常原鉄之助 金四郎
童名名利兵衛 後改名弥五右衛門 後改名自有

女 常原七郎兵衛 久
女 大谷吉継 妻
某 藤沼庄兵衛 後改名藤沼源左衛門 妻

利見 二男 弥五右衛門 実子
松原彦兵衛高重妻

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

利度 家原左近将監 利名 実ハ国棟 家

源氏
栗原 南國守護

新羅三郎義光四代
信義 武田太郎
信光 武田五郎 三男小二郎伊豫守
信政
信時 五郎伊予守

時綱 六郎伊予守
信宗 安藝守
信氏 伊予守甲斐守
信成 次郎刑部少輔

男 栗原七郎
武績
信通 栗原出羽守
信明 栗原出羽守
信遠 栗原民部少輔

信友 栗原伊賀守
信方 栗原手越郎

延徳元年巳酉五月二日卒 八十
刑部尾山本妙寺

元年己酉九月廿

常原二郎　尾張守

利篤　実は宗服伊予守利明の猶子建元男
常原半五郎　孔無子利篤嗣常原
爭地無利退常原於尾州広中原合戦死

利貞　常原伝五郎　左衛門尉

又利篤養嗣甲斐守出勤命由進退
永正十年壬酉仕武田信虎賜常原
大永元年辛巳死

常原左衛門尉

詮冬　仕信虎信玄二代駿天文廿一年壬子三月廿五日長尾景虎信州善光
寺合戦得深手同年冬元服号五

詮利　常原右近進　左衛門尉

詮冬ノ遺子孫居於甲斐国岩根
百時預者日源出即是
天正二年甲戌春信玄武

天正十年壬午五月甲斐国仕武田家滅亡大由氏之乃於同国足立郡伴森庄郷采地八十貫文天正十八年庚寅落城後於采地蟄居

利行　常原左衛門七郎左衛門尉
天正十年壬午甲州陣至享都庵長年中於伏見奉仕
大納言殿二百貫文

利幸　常原平右衛門
天正十年壬午信州高遠城攻

中里伝吉

常原 日向守
住武州信濃勝報寺十五世 中興七後教后城中横山冤

忠重 常原大学助
始号住
大神君勝武州児玉郡国吉田横山郷五百石

清次 常原忠兵衛
忠正 常原又右衛門

常原 壽阿
改九州豊前 張陽 鞠造 鞠造 内芸

修禾源之寿義五男
義清 修禾玉郎 尤毛尉 陽汝寺出家寺

三男
義清 修禾使者 修行者修正 時信 修禾陽岑修正

清房 修禾命 幸成 文左衛門尉清房

知房 修禾之助 幸 修禾西郎 幸 修禾孫四郎
住武田陸奥守修喜

某　佐竹源四郎
仕武田刑部大信重　某　仕武田信孝信昌

佐竹内膳

室　佐竹内膳正
妻　宗尿氏部信遠女
仕武田信昌
室　宗半五郎信之孫無子以舎弟信貴
信昌未許嫁山之時分利為妻
加賀美次郎宗信舎之仕利為妻
追而く修理大夫卿山之時分利為妻
武田信昌起追却之室仍信貴去

室　宗内膳正
妻　宗尿氏部信遠女
佐竹内膳正
室　宗原氏部信遠女
隼物　室　宗原四郎之助
女子　室　宗原氏部信遠女
永正三年宗之両通上州等五
到上州新田郡等山城仕中良信乃守
四至其後四経〻独武蔵守為
五町城代
永禄二年已亡

室　宗内膳
宗寄　室　宗原内膳
仕中良信乃守武蔵守為武田刑部大輔信重
天文十九年庚戌三月廿五日卒

室　宗原又四郎
立　遠房
永禄元年午十月七日出於駿信出兵甲州中良成敗之間其一子跡共為修詰
出於同州猿江宣房為武者日於西上野所数度軍功中良同意
被感状

室　宗原
之房　室　宗原内膳
之房　室　宗原四郎之助
隼物　室　宗原氏部信遠女
永正三年宗之両通上州等五
到上州新田郡等山城仕中良信乃守
四至其後四経〻独武蔵守為
五町城代
永禄二年已亡

室　宗原
之房　室　宗原内膳
之房　室　宗原四郎之助
隼物　室　宗原氏部信遠女
永正三年宗之両通上州等五
到上州新田郡等山城仕中良信乃守
四至其後四経〻独武蔵守為
五町城代
永禄二年已亡

室　宗原
之房　室　宗原内膳
之房　室　宗原四郎之助
隼物　室　宗原氏部信遠女
永正三年宗之両通上州等五
到上州新田郡等山城仕中良信乃守
四至其後四経〻独武蔵守為
五町城代
永禄二年已亡

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

元亀四年癸酉 九云

光寺　常厚内膳
　　仕中良侍光寺岡繁
　　天正十年於京都山崎戦死年三十四
　　常房
　　常忠ノ卿
常房
　　天正十年午六月九日四郎多利
　　如安倍行高同十七年正月自北條氏政被加勢同八年
　　常陸出兵之節同年秋小田原陣之時以
　　大納言取扱結于常州半弁慶旅宿墨房去由良家仕刕桐生
　　刕四家相傳之事陸義貞寺護後傳於由良四郎繁家委事
　　尊創一等拾刕桐生在番道之之
　　藤澤山谷常家馬大檀那領鏡
　　由良家　　由良普寺

任職而由良家無下知猶不住前
緣起云

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

義 淺利左中將
母 參事
信音 淺利式部丞
生 國學者
仕 初中信玄旅中山為足輕大將尽軍功
子 淺利與市郎 與兵衛
信 生 學者
仕 時賴旅長篠而戰死
子 武藏守 有延 妻
信也 淺利業力左衛門
子 一 子
二 女
三 女
信仲 淺利與市郎 與兵衛
生 學者
主五十年三月勝頼七條退于山林
鎌田權左衛門 尉
信福 參事

集 淺利平五郎
女子
信更 淺利平兵衛
生 國學者
住 甲州
實文 四年乙丑年六十二
信昌 淺利權六 平兵衛
生 學者
新規 于府初召出為御物頭
後移出仕府內
住 甲州
信場 淺利平兵衛
實文 元年辛亥 府內初召為
吟味方物頭
集 淺利文四郎
文政八年乙酉年卒

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

延昌 浅利彩部次郎
生平要
住駿河国富士郡
貞永元年辞居

某 浅利左衛門尉
生平要

某 浅利左衛門尉
浅利本系

延永 平係孝
世平係氏
貞文元年辛巳 新規評定衆
寺行年廿四加番
為花人

女子 浅利左衛門尉 妻

某 平係孝衛門

平姓
飯塚 本国下総

頂寺府寺奉安
七世

寺廣 迎接八郎
住下総州迎接郷

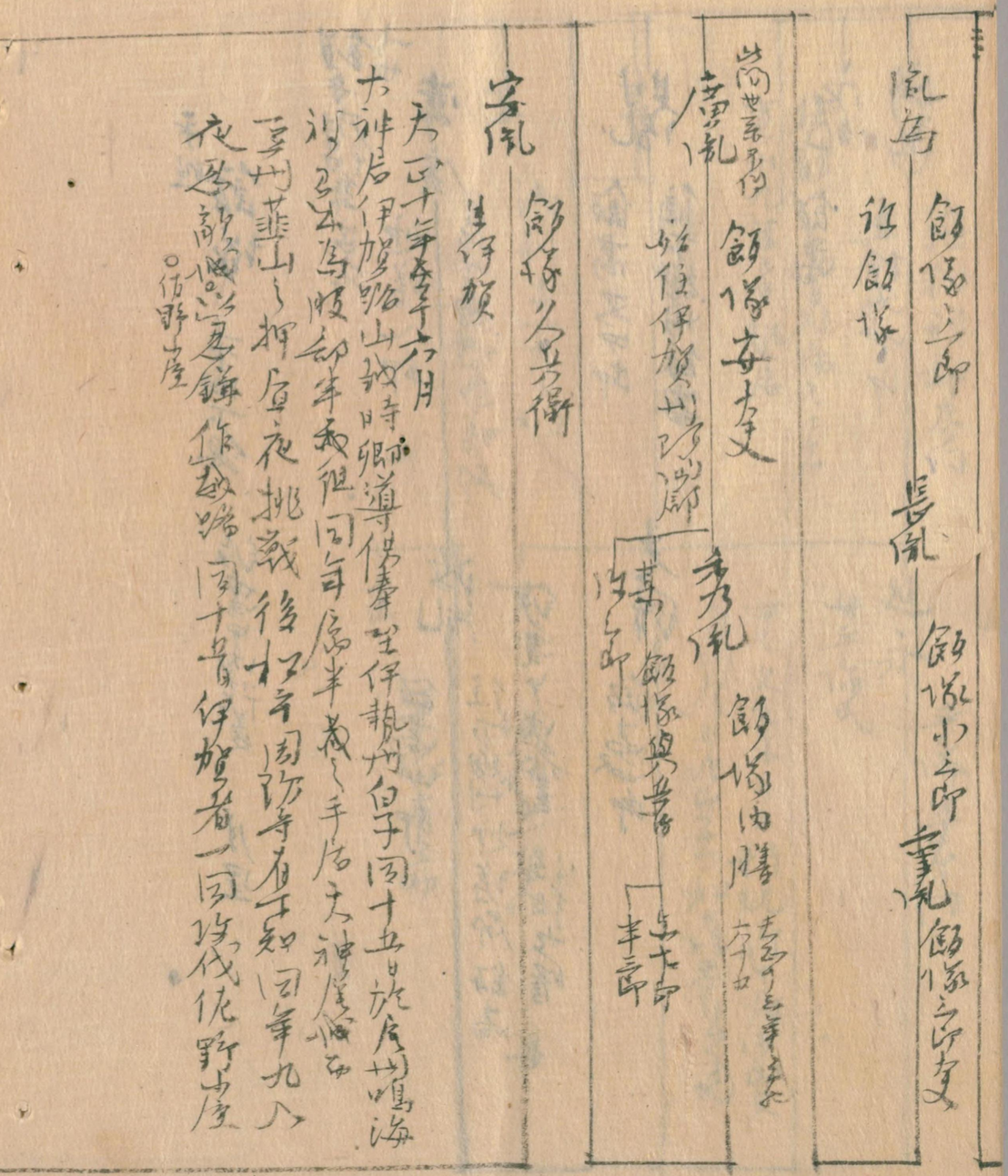
政胤 飯高四郎
住下総州迎接郷飯高
弘長甲内花堂
後改九郎

則胤 飯高又四郎
住下総州飯高

永胤 飯高
清胤 吉村又四郎

光清 飯高孫四郎

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用



服部権変ヲ為加勢駆来
帝撰時ノ攻戦
同年伊賀者一同攻
同十七年壬子三月廿日
同十七年壬子年
同十七年壬子年
箕浦郷地杉ノ峠
其古軍攻ノ時
之創同年度也
同十九年辛卯年
同十九年辛卯年
賜采地五斗文
野州大久保
依同心為
同九年壬辰年

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

儒乱 飯依左内
某 飯篠長右衛門
男子
男子

某 飯尾新右衛門之
男子
乱 飯尾壱岐守 仕和泉伊賀守
飯尾備前守 薩摩守
某 女

之和元年癸亥九月廿五日
寛文十二年壬子
寛文十三年癸丑 九月廿一日改元延宝元年

某 飯尾藤右衛門
女

某
男子
男子 飯尾孝之助 伊賀守
女

寛文十三年癸丑廿一日改元延宝元年
寺任三年乙卯九月廿九日改元天和元年辛酉
五年乙丑八月廿三日改元貞享元年甲子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

某

某　飯塚伴右衛門

寛保三亥年九月廿六日
同十二年十月七日　死

某　飯塚半三郎

寛保十二壬年十月廿四日
元文五申年十月　死

某　飯塚喜右衛門

寛

元文二巳年四月廿日
宝暦二申年二月　日　死

某　飯塚松五郎

宝暦三酉年三月十日
寛政七卯年七　死

某　飯塚新兵衛

寛

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

寛政六年甲寅五月　[illegible]
文化五年戊辰十一月　[illegible]

匡道
實
飯塚源三郎　伴左衛門
文化六年己巳二月跡目拾俵　内七俵[illegible]
天保十三年壬寅十一月明屋敷番伊賀者役

鉄太郎
女
源次郎
文六郎
重之

石川
[illegible]棲武

石川五郎左衛門
元禄二年己巳十　桜田御厩別当為御抱為御焼頭山本喜左衛門原田
正徳五石川[illegible]御焼方
宝永元年甲申十五移寛為御焼方二年任同六年己丑移御寛
享保七年壬寅十九死

五郎左衛門
享保七年壬寅七月為父跡御焼方明和二年乙酉日出老許
同五年戊子四月[illegible]死

盛三郎

宝暦九年己卯十二月為小姓方明和二年乙酉三月為文昭院様
御小納戸仰付同八年辛卯十一月九日

某

某

富七ヶ助

某

勝泰

前田 李四

紘胤妻 梅鉢

鎮守府将軍利仁十二世

前田左ヶ門次郎 利忠 前田勝左ヶ門

某

世住秀郷朝臣勧修寺家之門人之後仕加賀侯前田修理亮家

某 前田彦左ヶ門

生国秀郷

病篤之節妻子之後仕少年中納言吉徳卿
御入国懐山林後仕前田修理亮家法印徳書院
元文三年戊午

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

某　前田彦一郎　仕前田主膳正　早世

某

某　幼名　前田伊藤太　生濃州
前田主膳正断絶後致浪居先祖跡[illegible]美濃国[illegible]郡　於美濃死

某　前田弥三郎　生濃州

某　前田彦助

某　前田新五兵衛　生同

某　前田藤左衛門　生美乃

慶安二年正月新規為御細頭有故寛文六年組御預六人
貞享四年正月老病辞無程病死

某　前田新助

某　前田新兵衛　仕石川播磨守

某　前田藤左衛門　生江戸
天和二年壬戌新規為御徒方六人

某　前田猪七郎　無子
元禄十六年癸未為御徒方六人
宝永二年乙酉死

某　前田藤八郎　生江戸
元禄四年辛未新規　櫻田御殿御徒方六人　宝永元年甲申十二月為御徒方六人
宝永六年己丑正月死

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

前田筑前守

某　母

生母

宝永六年癸丑九月廿四日
元文二年丁巳十二月七日

前田筑前守

某　母

生母

宝暦十三年癸未六月廿八日
明和八年辛卯正月廿九日

前田筑前守

某　母

生母

宝暦十三年癸未六月廿八日
明和八年辛卯正月廿九日

前田筑前守

某　母

生母

宝暦十三年癸未六月廿八日
明和八年辛卯正月廿九日

前田長門守

某　母

生母

文政二年己卯十二月廿日
同四年辛巳六月七日

前田長門守

某　母

生母

文政二年己卯十二月廿日
同四年辛巳六月七日

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

前田伊豆守

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

池田

長常　池田出雲守

女子

長吉　池田備中守

男

長幸　池田清右衛門

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

長純　池田三之助　早世

長信　池田長吉　修理　寛永七年卒　禄二千石

女子三人　池田下総

長泰　某元長信子　妻池田河内守女

長重　池田織部

長説　志島又左衛門

長有　池田下総　仕綱政

長建　養子　某　内膳　仕池田伊予守綱政　五百石

長住　五百石　元宗三郎　長富　左助　仕備前宰相池田継政

池田新兵衛

六左衛門 ― 大成

女子

可秀　某　式部　越後守

可成　某　三左衛門　仕信長

可政　某　對馬守　仕信長　秀吉

成恒　某　豊後守

女子

可永　某　惣兵衛　仕森美作守忠政　七千石

三　口次　某　河内　仕森美作守忠政

六　女子三人　某室　関彦左衛門室　某　後路兵衛室

五　某　某　伊織

四　某　仕森美作守忠政　某　左近

二　可澄　某　長兵衛　知五百石　筑後守

一　重政　某　伊賀守

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

重紀　鎌木左京進
居二州那珂郡一木
文祖元寺表六千四百年二州矢並左京亮ノ唐南印佛居主

光善　鎌木隼人佑　重政　鎌木三郎右衛門

重達　鎌木五郎左衛門尉
神居ヲ仕信濃ニ多久ノ城

重定　鎌木三郎右衛門尉　光善ノ二男　七ノ元
鎌木治右衛門

重石　鎌木三郎左衛門尉
大神居ヲ仕

重解　鎌木清兵衛
大神居ヲ仕

重史　鎌木市左衛門
大神居ヲ仕

重武　鎌木仁兵衛

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

838
297
116

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用